

1年生「学長さんと話そう」

廣瀬君「経理研で会計士をめざしたい」

鈴木さん「坂道通学ですっかり筋肉質に」

吉野谷さん「総政に入って語学のカン戻る」

岡野君「司法試験以外にも力を入れて」

鈴木康司学長 中央大学のOBは「いまの学生たちが、どういう基準や動機で大学選びをするのか。そして何を望み、何を期待して入学するのか」を大変興味を持っています。始めに、そのへんを皆さんからうかがいましょう。

岡野雄一郎（法学部） 高校から推薦されて入学しました。社会的な知名度や自宅から通えるのも理由の一つです。雰囲気はいいし、施設面でも気に入りました。学食はとにかく素晴らしいですね。

鈴木菜穂子（文学部） 私は、もともと中央大学に知り合いがいましたので、設備とか学校の雰囲気などは聞いていました。入試のときの資料を見て、教職がいますごく難しいのですが、その中でも教職に就いている人数を考えると、やはり、それなりの授業を受けることが出来る大学かなと思ひまして……。

学長 モノレールが開通して、文学部の人は特に良かったですね。

鈴木 でも私は京王線で来ているから、多摩動物園から歩いているんですよ。お陰ですっかり筋肉質になりました、2か月で。ダイエットになりました（笑い）。



廣瀬 俊一郎
（商学部会計学科）



鈴木 菜穂子
（文学部英米文学科）



吉野谷 尚子
（総合政策学部政策学科）



岡野 雄一郎
（法学部法律学科）



廣瀬俊一郎（商学部） 私は子供の頃から「リーガーに入ろうか」と考えていたのですが、関東選抜のときに監督から「お前はキーパー志望だから身長が伸びなかったら、リーグでは通用しない」といわれたんです。サッカーで集中力もついてきたので、ほかで役立てないかと考えた末、大学へ進むことにしました。父親が税理士をやっていることもあって、小さな頃から公認会計士になることを第2の目標にしてきました。中央大学には経理研があり、授業内容もしっかりしていると父から聞いていました。また、中高の時にフランス語をやっていたので、それもやってみたかった。とにかく、中大の4年間にフランス語と公認会計士の勉強をしたいと思います。

また、ことしから大学院に国際関係の公認会計士のプログラムがあるという情報が入りました。そうであったら大学院からパリ商科大学の留学というものも利用して、会計士とフランスというのを結び付けてやっていこうかなと思っています。

学長 非常にはっきりしている。立派なものですね。それで、入ってみての印象は。

廣瀬 図書館は充実していると思ったんですが、経理研の授業が思ったより少ないですね。皆で話したんですけど、経理研の授業を学校の授業単位に入れていただいたら、会計士の勉強にもっと力を入れられるかなと思うんですが。

岡野 法学部の法職講座も同じです。

学長 やっぱり、ああいうキツイ授業をこなしていくと、合格者も増える。公認会計士は2000年度実績では、中大が3位で、慶応、早稲田に次いで多いんですね。東大よりも上にはいるんです。ただ、これからの公認会計士の場合、国際会計基準をしっかりと身につけないと世界に通用しなくなっているんです。専門大学院として国際会計大学院を作る一番のポイントはそこにあるんです。外国対象に取引している大きな企業は、みんな国際会計基準に切り換えつつあるんです。それに制度がまだついていない。だから中央大学としてはそれを先取りして、設置することになった。来年の4月から開講します。

廣瀬 君みたいな学生が4年間みっちり勉強して、そういうところに入っていくと公認会計士も受けやすくなるだろうし、将来つぶしが効く。フランス語が出来る公認会計士はあまりいませんね。広

鈴木学長「キャンパス・ライフは一段と向上」

瀬君はフランスへ行ってた？

廣瀬 行ってないです。小、中、高とフランス語をやっていただけです。

学長 吉野谷さんは総合政策をどうして選んだんでしょう。自己推薦入試で入学していますよね。自分を自分で推薦する制度なので、概して自信過剰な人が多いんだけど、あなたのセールスポイントは何でした？

吉野谷尚子（総合政策） 高校のときにオーストラリアに留学したので、英語は得意でした。留学から帰っても英語をそのままキープしていきたいということと、もっと向上していきたいという思いが強かったのです。慶応の総政学部と最後まで迷いましたが、カリキュラムが、こちらの方が楽しそうだったので中大を選びました。中大はIT系の英語を追求する学部です。オーストラリアではコンピューター授業には結構自信がありましたので、結局は中大の方がいいかなと思いました。

学長 実際に入ってみて、どうでした？

吉野谷 英語がしゃべる人があまりに多すぎて。電話でもいきなり英語に変わったり、英語で会話している人もいるし……。

学長 そもそも総合政策は、そういうことが日常的にできるような学生たちを育てるために作ったんですよ。

吉野谷 向こうにいた時、英語で考えていたことが、こっちに帰ってきて日本語で考えて英語に直して、英語を喋るという循環が狂ってしまったけれど、総合政策に入って当時の感覚が少し戻ってきたようです。

学長 それはいいことだし、やっぱり喋る時にその言語で考えないと、普通の会話が出来ないからね。

吉野谷 そういう意味で、入ってすごくよかったですね。

学長 それはよかったですね。生涯付き合っていけるような友だちをつくることも、大学生活の大きなメリットですよ。自分の

長い人生のキャリア・デザインを、どういうふうに描いていったらいいのか、われわれとしても学生たちに、そういった環境を提供しようと、いま就職部で考えています。ことしから先生方にも参加していただいて、君たちと交流しながらやっていけるような組織を作ろうとしています。

それと去年の話ですが、中央大学は都立大学と東京外語大学の2校と全学協定を結びました。それぞれの大学の授業を学生たちが自由に、ある程度受講できることになる。そうすると中央大学に入ったのと同時に、他の2校にも入学したと同じ効果が持てるのです。協定を結ぶということは「お互いに無料でやりましょう」ということです。君たちは無料で都立大や外語大の授業を受けられます。

吉野谷 それは単位として認められるんですか。

学長 単位を互換しますよ。ところで、ホームページで私は映画のことをずいぶん書いたけど、読んでみた？

鈴木・吉野谷 見ていません。

岡野・廣瀬 ちょっとだけ見ました。

廣瀬 フランスに7年いたと、おっしゃいましたが、それはいつ頃なんですか。

学長 最初は27歳のときに大学院の試験に合格して行きました。このときは2年半。帰ってきて、中大に就職してから、ちょこちょこ夏やなんかの休みを使ってきました。そのうえ、パリ国際大学都市日本館館長の2年間、それから96年に1年、その間にも、しばしば行っているの、全部合わせると、さっきいった7年になります。

廣瀬 どこが一番良かったですか。

学長 パリはフランスじゃないね。パリは国際都市ですよ。フランスって田舎に出ないと、その良さが分からない。フランスを旅するのは車が一番です。ぼくは留学の時、



フランスで免許をとったのです。

吉野谷 私もオーストラリアで。

学長 やさしかったでしょ。日本が一番、厳しいんだよね。向こうは初めから路上で練習するの。

吉野谷 そうです。私もドライビング・スクールに連絡したら、その日にレッスンを受けることになり、家にドライビング・ティーチャーが自分の車で来て……。

学長 でも、上達は早いよね。

吉野谷 だけど怖いですよ。

学長 そのかわり、フランスで免許を取ると一生涯、書き換えなしですよ。ところで、皆さんは夏休みになると、母校の高校へ立ち寄る機会がありますか。さっきの話によると、皆さん、中大が大変気に入っているということですが、母校に中大の魅力を大いにアピールしてもらいたいと思うんですが、どんな点をアピールしますか。

岡野 高校のコーラス部で手伝いをしていたら、その顧問の先生に「中大にあなたの成績を見に行くから」といわれました。やっぱり推薦入学ですから、追跡調査をするんですね。ヘタをすると母校からの推薦

枠が消滅するというのがあるらしく、それだけは避けないといけないんですね。だから頑張らないといけないんです。

学長 君が推薦で入れたということは、君の先輩たちが頑張ったという証拠だから、後輩のために頑張るって欲しいですね。

岡野 うちの高校は推薦枠が全学部あったと思うんで、入る人も多いと思います。やっぱり、後輩に対するアピールポイントとしては、図書館とか、学食にせよ、設備の豪華さを話そうかと思います。

学長 暁星高校からはどのくらい入っているの？

廣瀬 2人だけです。やっぱり高校が都心なので、多摩丘陵にあるという戸惑いを感じます。僕は多摩の景色が大好きなんですけどね。

学長 地方から東京に出てきたと思ったら、かなり田舎なので驚いたとの感想もありました。でも最近は、他から移ってきた大学よりは、かなり良くなったんじゃないかな。モノレールが開通してかなりアクセスが良くなったし。

ヤフーに中大の学生たちが意見をいっぱ

い載せたことがあるけど、あれだと割に評判がいい。入ってみての印象は「お勧め」と「まあお勧め」。「やめなさい」というのはあまりない。あなた方ももっと後輩に勧めてくださいよ。皆さんと一緒にもっと良い大学にしたいですね。ところで、中央大学に何を望むのか、何を期待しているのか、ということになると……。

岡野 法学部は、やはり司法試験を目指している人がかなりいて、モチベーションが高い人が多いようです。また、司法試験を目指していなくても、それに触発されて勉強しなけりゃいけないと思わせる空気があります。そこで、そういう実情に応える授業とか、カリキュラムとかに、反映させる努力をしてもらいたいと思います。

学長 なるほどね。

岡野 法学部は司法試験ばかりが目立っているじゃないですか。司法書士とか、行政書士とか、そういう試験にももう少し力を入れてもいいんじゃないかと……。

学長 そうだね。国家公務員試験一種、二種にも、もっと力を入れるべきだね。

廣瀬 それに5号館の授業なら椅子は結構いいんですが、8号館に行ったら、椅子がすごく固くて、90分座っていると足が痛くなってしまふ。狭いし、教科書は広げられないし、みんな困っています。

「黙っていると、満足していると錯覚する」

学長 こういう学生の生の声をどんどん上げてもらいたいですよ。黙っているということは、満足していると錯覚するんですよ。だから、黙っていないで是非教えてください。キャンパス全体の照明の問題とか、防犯面とかを十分に注意して、学生生活を快適なものにしていきましょう。

鈴木 いまは結構満足しているんですが、

英文科に入って英会話は随意科目で、単位はもらえないんですけど、私は教師になりたいし、みんな英語を使った職業に就きたいと思っている人が入っている学科なので、英会話はどうしても取っておきたいなと思っています。単位数を考えると単位を取れる科目の方は、とっておかなきゃというのがあるので窮屈ですね。

学長 逆に2年3年になった時にゆとりが出てきたら、取れることは取れるよね。

吉野谷 友だちの話ですが、彼女が学部に入ってから法学に興味が出たんですけど、法学部に転部ができればいいなという意見があるんですが、それは無理なんですか。

学長 いまは転部ができない代わりに他学部履修ができるようになっていきますから、大体、取りたい授業は取ることが出来ます。

岡野 ロッカーを設置していただけないでしょうか。荷物を置いて授業に出たいという希望が多いと思いますが。

学長 消防法の関係などで、ある程度のスペースは確保しておかないと難しいということだった。いわゆる学生棟、サークル棟でなく、要するにサークルに属していない学生諸君も使える学生棟の建設計画が進行中です。来春から始まって、1年ぐらいで完成します。君たちがいる間に出来上がります（本誌中央見開き図参考）。設計段階では業者と学生の代表に、随分すり合わせをやってもらいました。一般学生のキャンパス・ライフは一段と充実します。

* * *

きょうは諸君の生の声が存分に聞けて、非常に有益でした。こういった学生との対話を行うことによって、教職員、学生間の風通しをどんどん良くしていくことに、私も異存はありません。21世紀の中央大学のために、ともに頑張りましょう。

（おわり）